

CIVIC

レスキュー時の取り扱い

本書は、ハイブリッド車「CIVIC」のレスキュー活動を行う際に、特に注意していただきたい事項について説明したものです。次ページより該当する年式を選択のうえ、該当箇所をよくお読みいただき、記載されている注意事項を遵守してください。

2026年3月

本田技研工業株式会社

確認したい車両を選択してください（該当ページにリンクします）

CIVIC



販売期間： 2024.09～

CIVIC HYBRID



販売期間： 2006.09～
2010.12

ハイブリッド車 レスキュー時の取り扱い



CIVIC

初版：2022年7月

改版1：2024年9月

本田技研工業株式会社

はじめに

本書は、ハイブリッド車「CIVIC e:HEV」のレスキュー活動をする際に注意していただきたい事項を説明しています。
安全に作業していただくためにも、本書をよくお読みいただき注意事項を遵守してください。

CIVIC e:HEVは、モータとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用しています。モータは高電圧バッテリーやジェネレータ（発電機）から供給される電気により駆動され、高電圧バッテリーはジェネレータだけでなく走行中の回生ブレーキ等によっても充電されます。




【改版情報】

改版1：2024年9月発売モデルの情報追加 車両デザイン画、車両データを改訂

本田技研工業株式会社

安全に関する表示について

以下のシンボルマークのある項目は、安全に関して特に重要な事項を説明しています。
必ずお読みください。

 危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
 注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの



※車両の高電圧部位には左図のような高電圧警告マークが貼付されています。

目次

1. CIVIC e:HEVの見分け方	2
2. ハイブリッド車について.....	3
■高電圧部位	3
■高電圧の隔離	4
■高電圧の遮断	4
■リチウムイオン バッテリについて	4
■リチウムイオン バッテリ液漏れ時の処置	5
■車両の固定および安定を図る際は	5
3. レスキュー作業時の注意.....	6
■処置概要	6
■補機類の事前処理	6
■乗員を車室内から救助する際は	6
■火災時の注意と処置	8
■水没時の注意と処置	8
■リチウムイオン バッテリ破損時の注意と処置	8
■高電圧システムの遮断方法	9
■車両切断時の注意と処置.....	12
4. 事故車運搬要領.....	14
■車両データ.....	14
■けん引要領.....	14
■けん引フック・フロント タイダウンの位置	15
高電圧注意標示	巻末

1. CIVIC e:HEVの見分け方

1. CIVIC e:HEVの見分け方

以下にCIVIC e:HEVの外観および特徴を紹介します。

事故車両が該当車種であれば、本書に記載の注意事項を遵守してレスキュー作業にあってください。

外 観

CIVIC e:HEV：後部に“e:HEV”エンブレムがあります。



型式による識別

運転席シート右側床面にて型式およびフレーム ナンバーが確認できます。フレーム ナンバーの前3ケタが型式になります。

表示例：23M FL4- 10XXXXX /11XXXXX（7桁の数字）

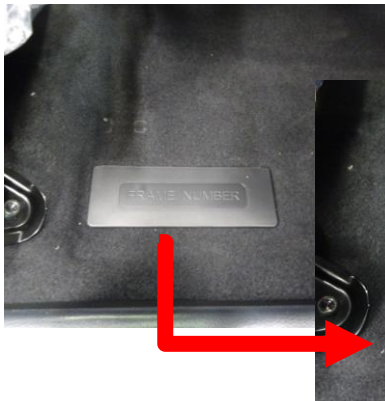
25M FL4- 12XXXXX（7桁の数字）

CIVIC e:HEVであることは、最初の3ケタの記号「FL4」で識別できます。

運転席シート床面



打刻位置：閉まった状態



打刻位置：開いた状態



2. ハイブリッド車について

CIVIC e:HEVの高電圧システムは、総電圧260V以上の高電圧を使用しています。そのため、レスキュー活動にあたっては、高電圧に対する注意と対応が必要です。

▲ 警告

- オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- 事故処理後の車両保管時など関係者が車両から離れる場合、他の人がハイブリッド車と知らずに不用意に触れることがないように、車両には「高電圧作業中・触るな」の標示をしてください。（本書巻末の高電圧注意標示をコピーしてご活用ください）

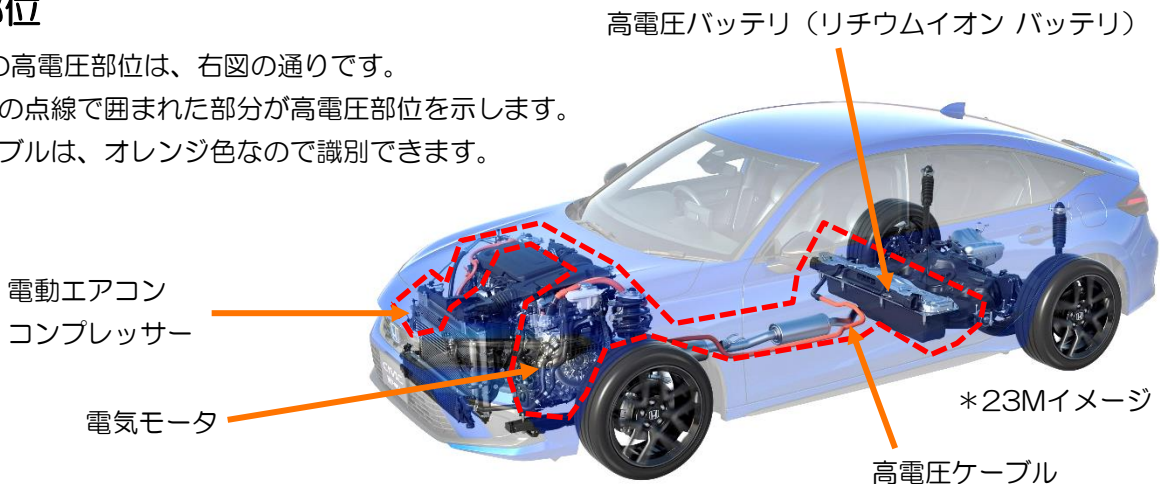
【準備品】CIVIC e:HEVのレスキュー活動にあたっては、あらかじめ以下の物を準備しておいてください。

- ①絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕
- ②ABC消火器
- ③耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕
- ④ウエス、古タオル

■高電圧部位

CIVIC e:HEVの高電圧部位は、右図の通りです。

- イラスト中の点線で囲まれた部分が高電圧部位を示します。
- 高電圧ケーブルは、オレンジ色なので識別できます。



▲ 警告

- 車両の吊り上げやジャッキアップ時、フロア下側の高電圧ケーブルに物が当たらないようにしてください。高電圧ケーブルが破損または切断された場合、配線が露出し不用意に触れると、高電圧による重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

2. ハイブリッド車について

■高電圧の隔離

CIVIC e:HEVは、高電圧が隔離されています。

- ・ 高電圧回路はプラス（+） / マイナス（-）の両極とも車体と絶縁されています。
- ・ 高電圧機器、高電圧配線にはケースやカバーを設け、高電圧部分の露出をなくしています。
- ・ 高電圧電装部品およびリチウムイオン バッテリーは、2列目シート下に集中的に配置し、ケースに収納されています。
- ・ エンジン ルーム内の高電圧配線もケーブル カバーにより隔離されています。
- ・ 高電圧配線はオレンジ色で識別されています。
- ・ 高電圧部分には注意ラベルを貼付しています。

■高電圧の遮断

CIVIC e:HEVは、高電圧を遮断できるシステムを備えています。

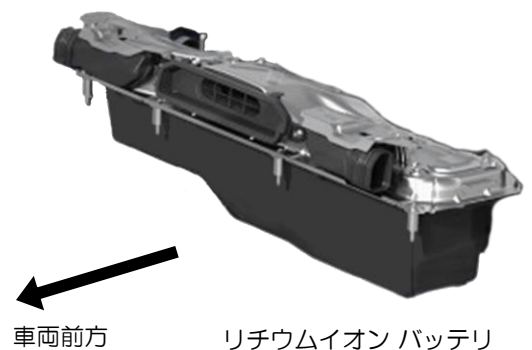
- ・ 衝突や水没などにより、短絡や過電流があった場合はバッテリー コントロール ユニットにより高電圧は遮断されます。またヒューズが溶断することによっても高電圧が遮断されます。
- ・ 高電圧回路の遮断は、パワー スイッチに連動しています。パワー スイッチがOFFになることにより高電圧回路は遮断されます。

■リチウムイオン バッテリーについて

CIVIC e:HEVは、12Vの自動車用バッテリーのほかに、高電圧のリチウムイオン バッテリー（駆動用電池）を搭載しています。

このリチウムイオン バッテリーは、総電圧が260V以上あります。リチウムイオン バッテリーは、ケースに収められ2列目シート下に格納されていますので、通常はバッテリー本体は見えなくなっています。また、電解液もバッテリー内に密閉されていますので、交換・補充は不要です。

万一、リチウムイオン バッテリーが破損しても電解液は多量に流出するおそれはありません。液漏れした場合の処置については、次項をお読みください。



▲ 危険

- ・ 車両損傷などで高電圧部品内部の構成部品や高電圧配線の導体が露出していた場合は、絶対に触らないでください。高電圧部品に不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

■リチウムイオン バッテリー液漏れ時の処置

CIVIC e:HEVのリチウムイオン バッテリーの電解液には揮発性有機溶剤が使用されています。また、無色透明のため見ただけでは判別できません。

リチウムイオン バッテリー付近に液漏れが確認され電解液が疑われる場合は、耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）〕を必ず着用し、乾燥したウエス等で漏れた液を拭き取ってください。使用したウエス等は密閉できる袋や容器に格納し、産業廃棄物として適切に処理してください。

⚠ 警告

- ・リチウムイオン バッテリーの電解液は人体に有害なため、目に入ったり皮膚に付着すると失明や傷害を受けるおそれがあります。万一、電解液が目に入ったり皮膚に付着した場合は直ちに多量の水で洗浄し、専門医の診断を受けてください。

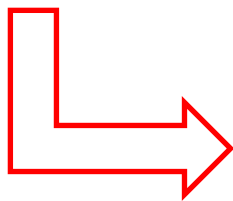
■車両の固定および安定を図る際は

通常の車両と同様に、パーキング ブレーキをかけて輪止めをしてください。

さらに安定させる場合は、車両の下に木片等の支持物を置いてタイヤの空気を抜くか、救出用リフト エアバッグ装置などを使用して車両を安定させてください。



*23Mイメージ



⚠ 警告

- ・支持物やリフト エアバッグ装置は、フロア下の高電圧部分や、排気系・燃料系などを避けて設置してください。高電圧部分の破損を招いたり、熱による予期せぬ火災の原因になるおそれがあります。

3. レスキュー作業時の注意

■処置概要

CIVIC e:HEVもガソリン エンジンを搭載しています。通常のカソリン エンジン車と同様の注意が必要なのはもちろんですが、ハイブリッド車固有の注意として高電圧に対する注意と処置が必要になります。

以下の各項目をよく読み、実際の作業時には状況に応じた対応をしてください。

■補機類の事前処理

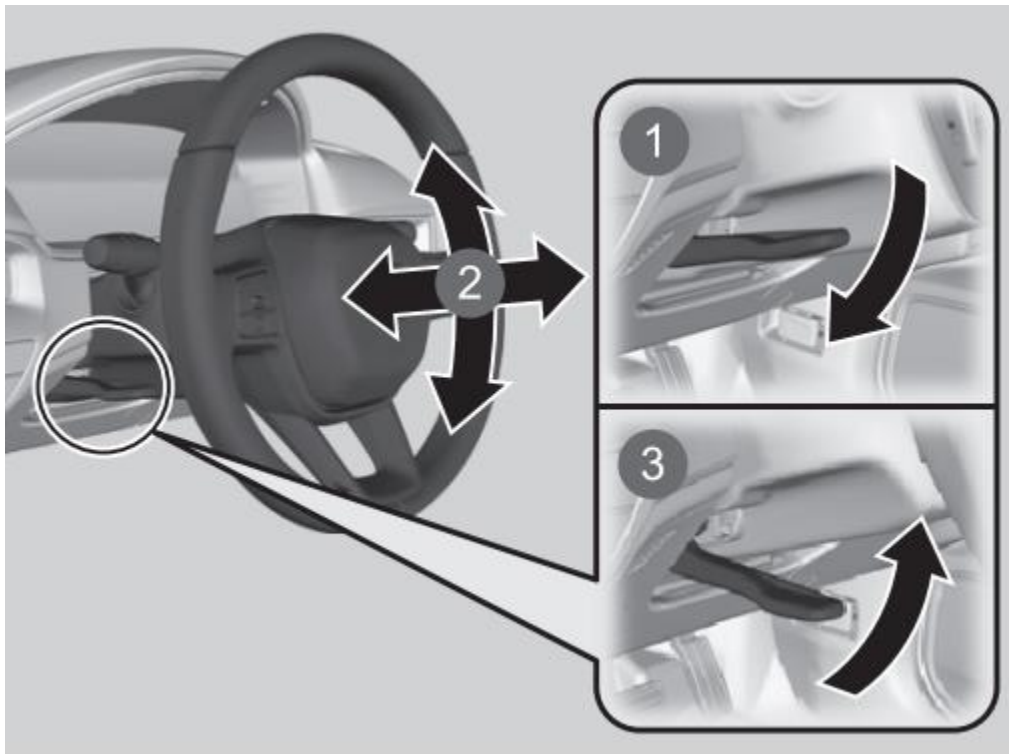
必要に応じて、パワー ウインドやドア ロック、テールゲート等の操作を行ってください。

【重要】12Vバッテリーの接続を切り離すと、上記電装関係の操作が不可能になります。

■乗員を車室内から救助する際は

前席に座っている乗員救助のためにスペースを確保する必要がある場合は、ハンドルの位置を調整してください。

レバーを押し下げるとハンドル位置が調整出来、レバーを引き上げるとハンドル位置が固定できます。

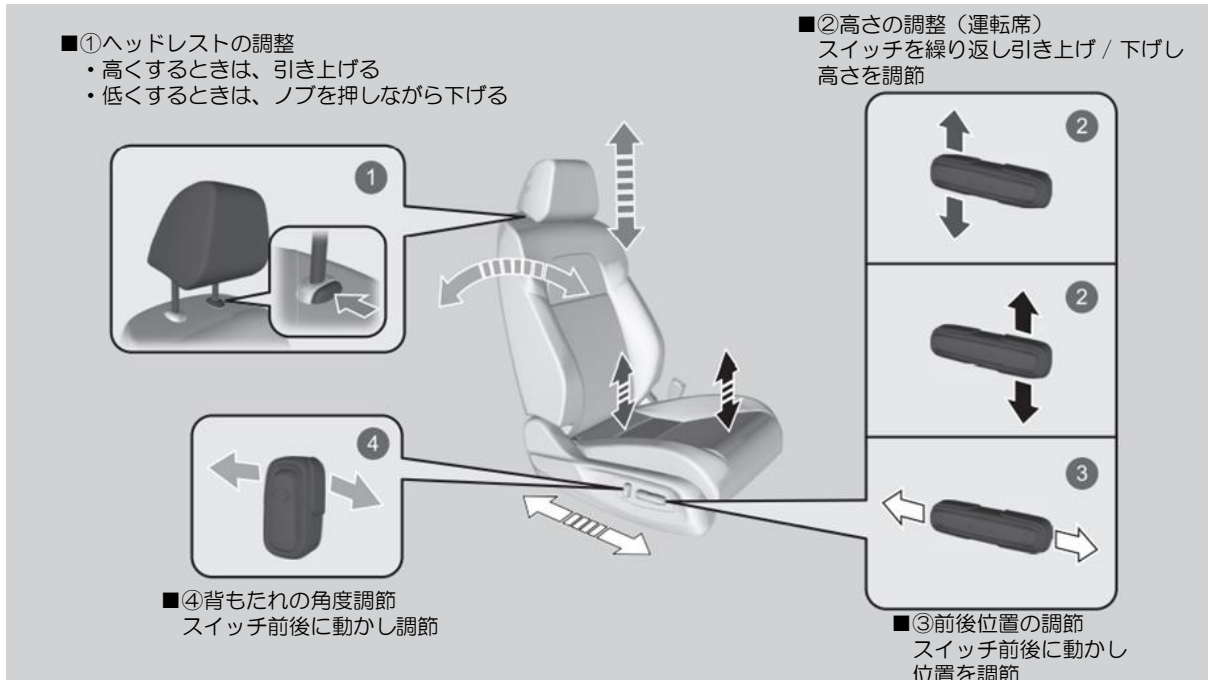


- ① 解除
- ② 調節
- ③ 固定

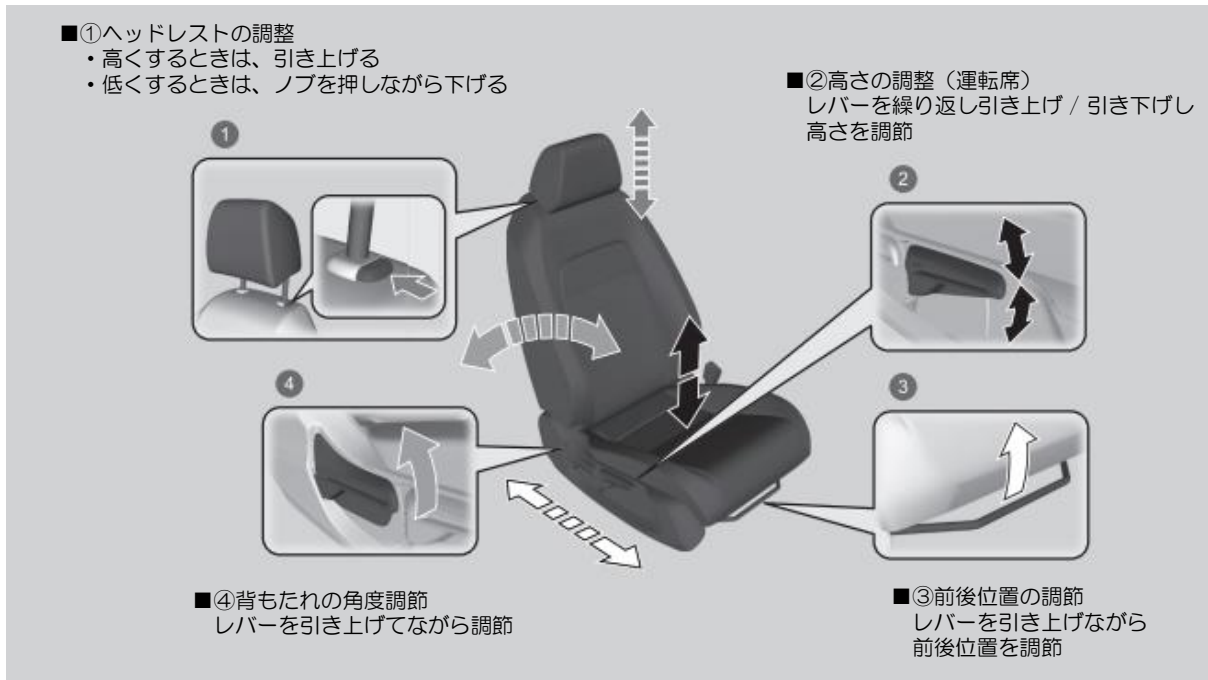
◆フロント シートの操作方法

スペース確保の必要に応じてフロント シートの位置を調整してください。

■パワーシート



■マニュアルシート



3. レスキュー作業時の注意

■火災時の注意と処置

車両火災時には、バッテリーの冷却を兼ねて大量の放水により消火してください。大量の放水が困難な場合はABC消火器（油火災・電気火災の両方に対応するもの）により消火してください。

火災時は電気配線の絶縁被覆が燃えることにより回路がショートし、パワー系のヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。また、大量の放水による漏電によっても回路がショートし、パワー系のヒューズやリチウムイオンバッテリーのメインヒューズが溶断し、高電圧が遮断されます。

火災部位により、ヒューズが溶断しない、放水による漏電が起きないなど、状況によっては高電圧が遮断されない場合もありますので、消火後は9ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

【参考】CIVIC e:HEVの高電圧システムに使用されている部品には、爆発性のあるものではありません。

■水没時の注意と処置

車両水没時、水の浸入による漏電で回路がショートすることにより、パワー系のヒューズやリチウムイオンバッテリーのメインヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。

水深が浅い、水の浸入による漏電が起きない部位の水没など、状況によって高電圧が遮断されない場合もありますので、可能な限り9ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

■リチウムイオンバッテリー破損時の注意と処置

衝突などでリチウムイオンバッテリーが破損していた場合には、以下の警告を守ってください。

万一、液漏れが疑われる場合は、5ページの「リチウムイオンバッテリー液漏れ時の処置」の項に従ってください。

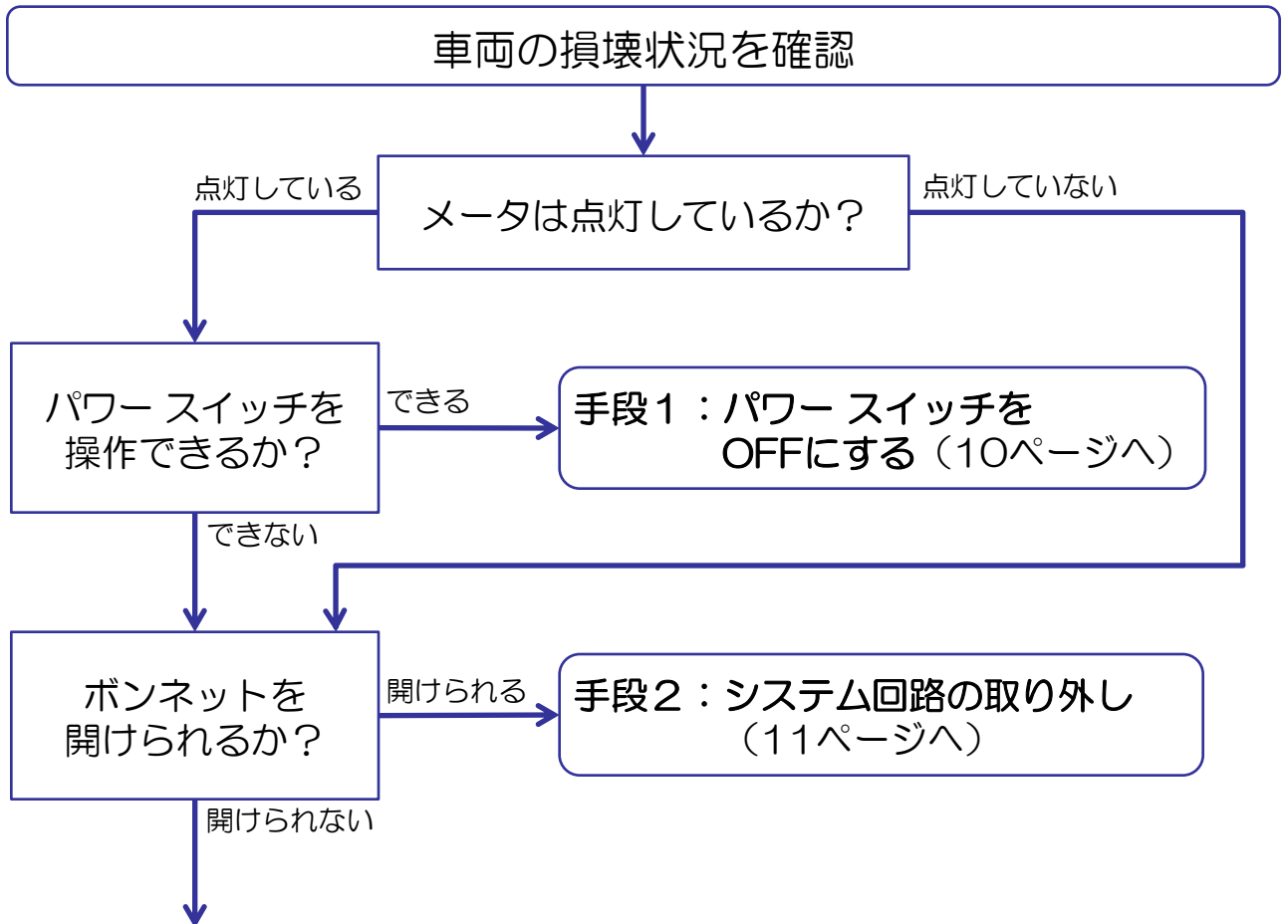
▲ 警告

- オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

■高電圧システムの遮断方法

車両の損傷状況に応じて、高電圧を遮断してください。以下に紹介するどの方法でも高電圧は遮断できます。高電圧の遮断後は通常のレスキュー活動が可能です。

下図の流れに従って、最も容易な方法を選択してください。



確実な高電圧遮断ができません。高電圧部位が損傷して配線や端子などが露出していた場合は、絶対に触れないよう、また露出部分が車両や人体に接触しないよう十分に注意してレスキュー活動にあたってください。

▲ 警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

手段1：パワー スイッチをOFFにする

◆車両が損壊していても、パワー スイッチ操作ができる場合

パワー スイッチをOFFにしてください

- ①パーキング スイッチを押してください。
- ②パワー スイッチを約2秒以上押し続けて、OFFにします。

*23Mイメージ



①パーキング スイッチ



②2秒以上長押し



⚠ 注意

メータ内の表示が消灯状態でパワー スイッチを操作するとシステムが起動する場合があります。

メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください

*23Mイメージ

メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください。

※意図しない再始動を防ぐためにも、キーレスリモコンを車から最低でも6メートル離してください。



⚠ 注意

パワー スイッチOFF後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあってください。

レスキュー活動を開始してください

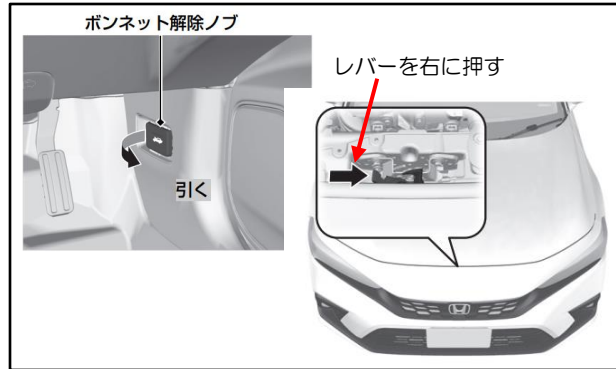
手段2：システム回路の取り外し

◆パワー スイッチ操作ができないが、ボンネットは開けられる場合

ボンネットを開けてください

運転席足元にあるボンネット解除ノブを手前に引き、浮き上がったボンネット前部中央にあるレバーを引き上げてロック機構を解除し、ボンネットを引き上げます。上記手順が実行できない場合は、パールなどでボンネットをこじ開けてください。可能ならば、開いたボンネットは備え付けのステーで固定してください。

*23Mイメージ

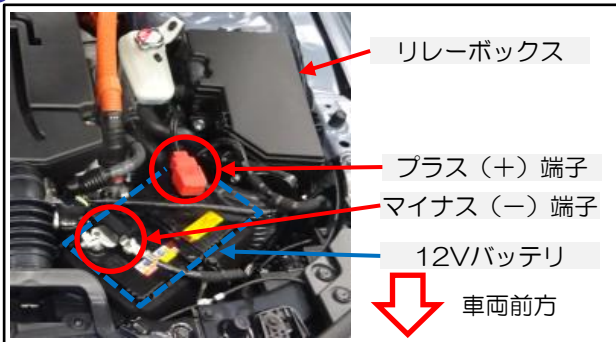


12Vバッテリーの接続を外してください

12Vバッテリーから、マイナス（-）端子側のケーブルを外します。

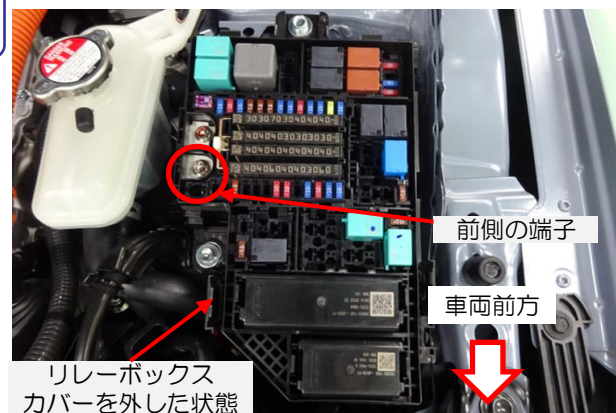
【留意点】

12Vバッテリーからマイナス（-）およびプラス（+）の両端子を外しただけでは、電気的接続を切断できません。



リレーボックス内部の前側端子を外してください

リレーボックスのカバーを外して、右図の“前側の端子”の接続を外して（または配線を切断して）高電圧システムの回路を遮断してください。



⚠ 注意

パワー スイッチOFF後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあたってください。

レスキュー活動を開始してください

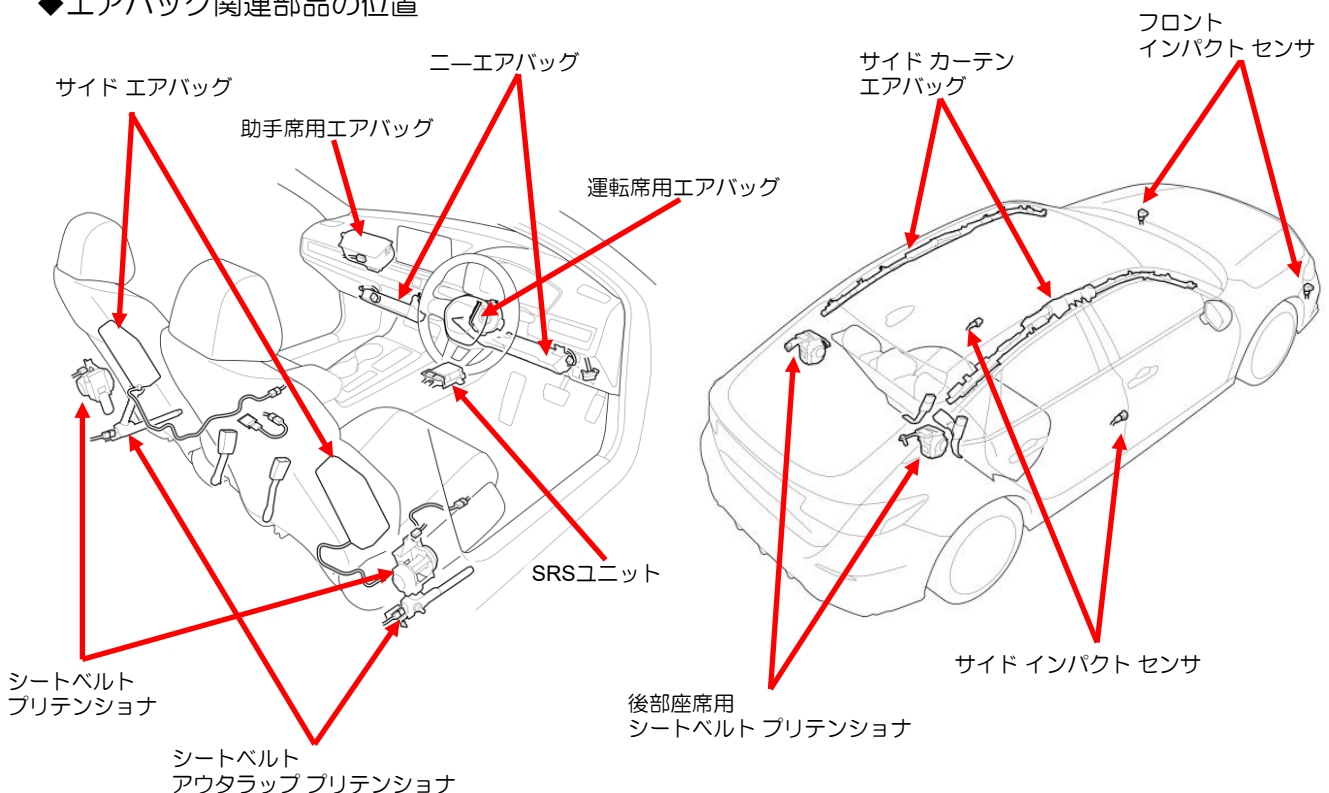
3. レスキュー作業時の注意

■車両切断時の注意と処置

▲警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- ・ 高電圧部位は切断しないでください。高電圧遮断後であっても切断により高電圧部分が露出すると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ 未展開のエアバッグや未作動のシートベルトプリテンショナは切断しないでください。エアバッグやシートベルトプリテンショナには高圧ガス発生装置が装備されているため、切断すると重大な障害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ エアバッグやセンサは切断しないでください。切断による配線のショートや衝撃等により、不意にエアバッグが展開すると、レスキュー作業時の2次災害を招くおそれがあります。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- ・ エアバッグシステムは、パワースイッチOFFまたは12Vバッテリーの接続を外してから、3分間はシステムが機能しているため、必ず3分以上の経過を確認してから切断作業を行ってください。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- ・ 火花による引火等により重大な傷害をおよぼすおそれがあるため、油圧カッターなど火花が飛ばない機器を使用して切断してください。

◆エアバッグ関連部品の位置

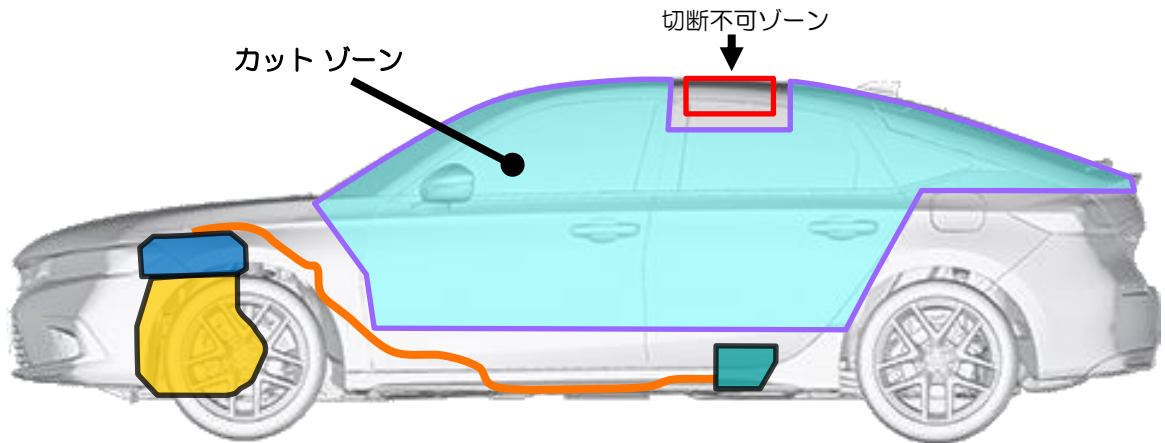


◆カットゾーン（切断可能領域）

乗員救助のために車体を切断したり、油圧カッターなどを使う必要がある場合は、下図のカットゾーンの範囲内で行ってください。

⚠ 警告

- ・車体側面にあるサイドカーテンエアバッグの高圧ガス発生装置部分近辺（下図の切断不可ゾーン）は、切断しないでください。切断すると重大な障害や死亡に至るおそれがあります。ただし、サイドカーテンエアバッグが展開済であれば切断しても問題ありません。



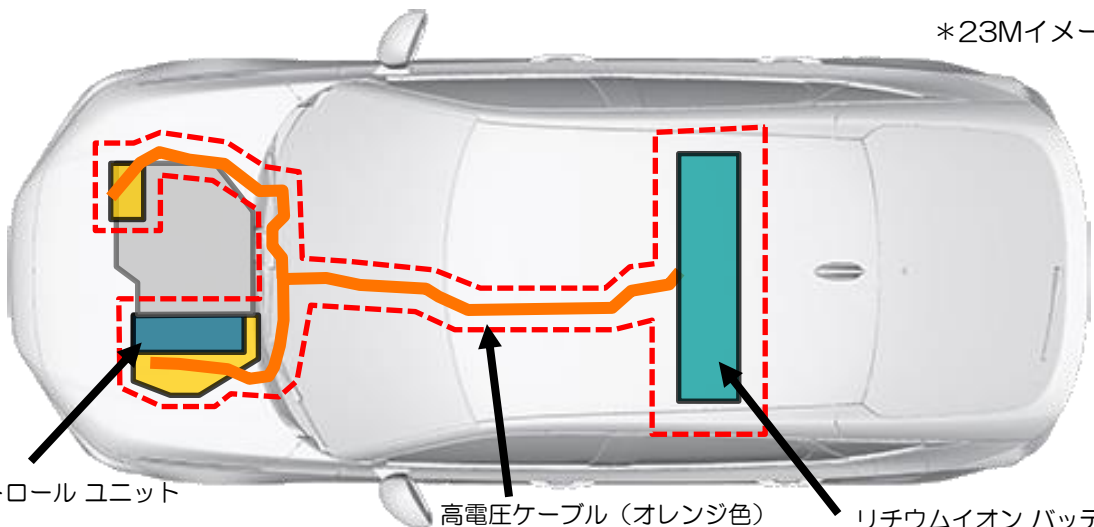
*23Mイメージ

◆高電圧部品の位置

乗員救助のために車体を切断したり、油圧カッターなどを使う必要がある場合は、車体底面の高電圧ケーブルおよびリチウムイオンバッテリー付近を避けてください。

⚠ 警告

- ・高電圧部位は切断しないでください。特にリチウムイオンバッテリーは高電圧遮断後であっても切断により高電圧部分が露出すると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。



*23Mイメージ

4. 事故車運搬要領

▲ 警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

■ 車両データ

項目 車種	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	ホイール ベース (mm)	車両重量 (kg)
23M CIVIC e:HEV	4,550	1,800	1,415	2,735	1,460
25M CIVIC e:HEV Exグレード	↑	↑	↑	↑	1,490
25M CIVIC e:HEV Lxグレード	↑	↑	↑	↑	1,460

■ けん引要領

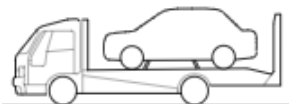



けん引は次の点を守って行ってください。

- けん引ロープなどは、フロント/リヤけん引フック以外に掛けないこと（フロント/リヤ タイダウン スロットは車両固定時のみ使用すること）。
- 車両を持ち上げるためにバンパを使用しないこと。
- 車両に損傷を与えるけん引は行わないこと。
- 速度は30km/h以下で、走行距離80km以内のけん引とすること。
（4輪を持ち上げてのけん引を除く）
- 前後の車輪が動かない場合は、4輪を持上げて運搬すること。
- Nポジションの状態にならない場合、4輪を持上げて運搬すること。
- 道交法に従ってけん引すること。

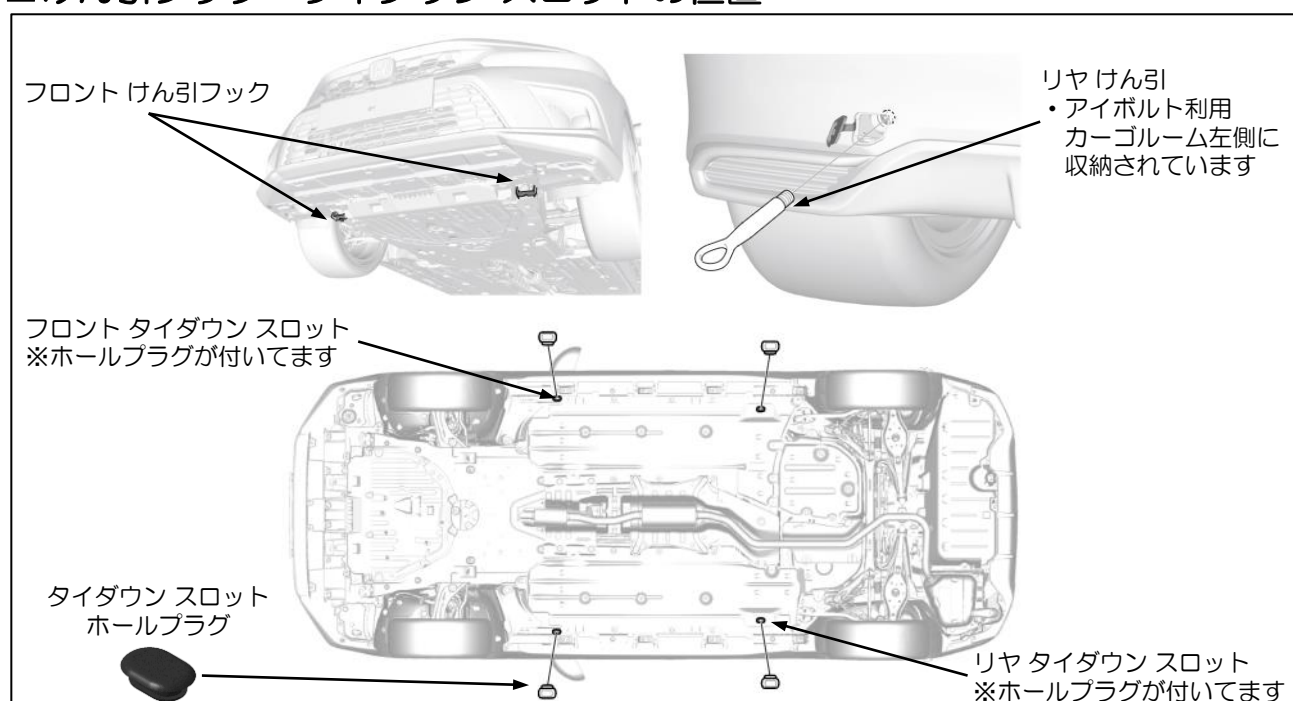
※本機種では、パワーモードをOFFモードにすると、パーキング ブレーキが自動で作動するよう車両の設定を変更することが可能です。

けん引の場合には、必要に応じて自動パーキングブレーキ作動機能をOFFにして、パーキング ブレーキが掛からないようにしてください（15ページ参照）。

けん引は下表に従って行ってください。

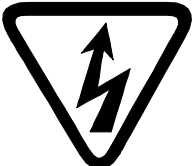
けん引方法	けん引可否	シフト位置	条件または注意事項
・4輪を持ち上げてのけん引 	○	Pポジション	・車両が飛び出さないように必ず車両を固定すること。 ・パーキング ブレーキをかけること。
・前輪を持ち上げてのけん引  ・トレッカによるけん引 	○	Nポジション	・パーキング ブレーキを解除する。 ■ 自動パーキングブレーキ作動機能を一時解除する方法 ①POWERスイッチがONモードの状態ではブレーキペダルを踏んで停車する。 ②POWERスイッチをOFFモードにした後、2秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。 ■ Nポジション保持モードへの移行方法 ①ブレーキを踏んだ状態でパワースイッチを押し、READY状態にする ②シフトポジションをNポジションにする ③ブレーキペダルを踏んだまま、再度“N”ボタンを押すのと同時にパワースイッチを押す。 ④マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングに入れてください」表示が出ていることを確認する ⑤④の状態となってから12Vバッテリーのマイナス（-）端子を外す
・ロープによるけん引 	×	—	前輪が接地した状態でけん引されると、モータが回転してシステムにダメージを与える場合があります。

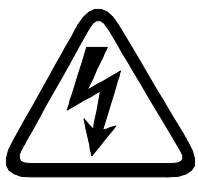
■けん引フック・タイダウン スロットの位置



担当

！ 触るな！

中 高電圧作業中 



高電圧作業中
触るな！

担当

CIVIC

HYBRID

*INTEGRATED
MOTOR ASSIST* **IMA**

06M シビックハイブリッド レスキュー時の取り扱い



平成21年9月
本田技研工業株式会社
四輪品質サービス部

目次

06M シビック ハイブリッド レスキュー時の取り扱い

◇車両諸元	2
◇作業上の注意事項	3
●衝突などで損傷を受けた車両の処置	
●高電圧部位	
●高電圧回路の点検・整備上の注意	
●全般的な注意事項	
●メイン スイッチの切り方	
●12Vバッテリー交換時	
●オートアイドル ストップについて	
●12Vバッテリーあがりのとき	
◇けん引について	8
◇06M シビックハイブリッド外観の特徴	9

◇車両諸元

①自動車の種別・寸法・性能

- ・種別、型式 普通自動車、DAA-FD3
- ・寸法 全長4,540mm 全幅1,750(MX)～1,755mm(BXM)
全高1,435mm ホイールベース2,700mm
- ・車両重量 1,280kg(MX)～1,260(MXB)kg
- ・燃料消費率 31,0km/ℓ(MBX) 28,5km/ℓ(MX)(10・15モード)
- ・乗車定員 5名

②エンジン

- ・種類 水冷直列4気筒 横置SOHC 3ステージ i-VTEC
- ・総排気量 1,339cc(1.3ℓ)
- ・最高出力 70KW(95PS) / 6,000rpm
- ・最大トルク 123N・m(12,5kg・m) / 4,600rpm

③モーター

- ・種類 交流同期電動機(薄型DCブラシレスモーター)
- ・最高出力 15KW(20PS)/2,000rpm
- ・最大トルク 103N・m(10,5kg・m) / 0～1,160/rpm

④動力用主電池(「IMAバッテリー」)

- ・種類 ニッケル・水素電池
- ・定格電圧 158V

⑤補機用電池(補機バッテリー)

- ・種類 シール型鉛蓄電池
- ・定格電圧 12V

◆作業上の注意事項

衝突などで損傷を受けた車両の処置

IMAシステムは高電圧(DC158V)を使用し、「IMAバッテリー」の電解液には強アルカリ性の水酸化カリウムを用いています。処理を誤ると感電・炎症などの重大な傷害を受けることがあるので、下記の要領で正しい作業を行うこと。

●準備品

- ①保護具(絶縁手袋又はゴム手袋・保護メガネ・安全靴)
- ②飽和ほう酸水20ℓ(粉末のほう酸800gを、容器に入れて20ℓの水で溶かす)※1
- ③赤色リトマス試験紙※1
- ④ABC消火器(油火災・電気火災の両方に対応するもの)
- ⑤ウエス・古タオル等(電解液拭き取り用)
- ⑥絶縁テープ
- ⑦電圧計

※1:ほう酸・リトマス試験紙は薬局でお求めいただけます。

●事故現場での処置要領

- ①絶縁手袋又はゴム手袋・保護メガネ・安全靴を着用する。
- ②高電圧線かどうか不明のむき出しの配線には触れないこと。触れる場合、または触れる恐れのある場合は、絶縁手袋を着用し、テストでボディアースとの電圧を測定してから絶縁テープで絶縁する。
- ③車両火災が発生している場合はABC消火器で消火する。少量の水による消火はかえって危険な場合があるので、消火栓から大量に放水するか、消防隊の到着を待つ。
- ④車両が水に浸かっている場合は感電する危険があるので、高電圧システムの部品や配線には触れないこと、車両を完全に引き上げてから作業を開始する。
- ⑤「IMAバッテリー」付近の液漏れを確認する。液が漏れている場合は強アルカリ性の電解液である可能性が高いので触れないこと。やむなく触れる場合はゴム手袋と保護メガネを着用し、飽和ほう酸水で中和し、赤色リトマス試験紙が青に変化しないことを確認してからウエス等で拭取る。

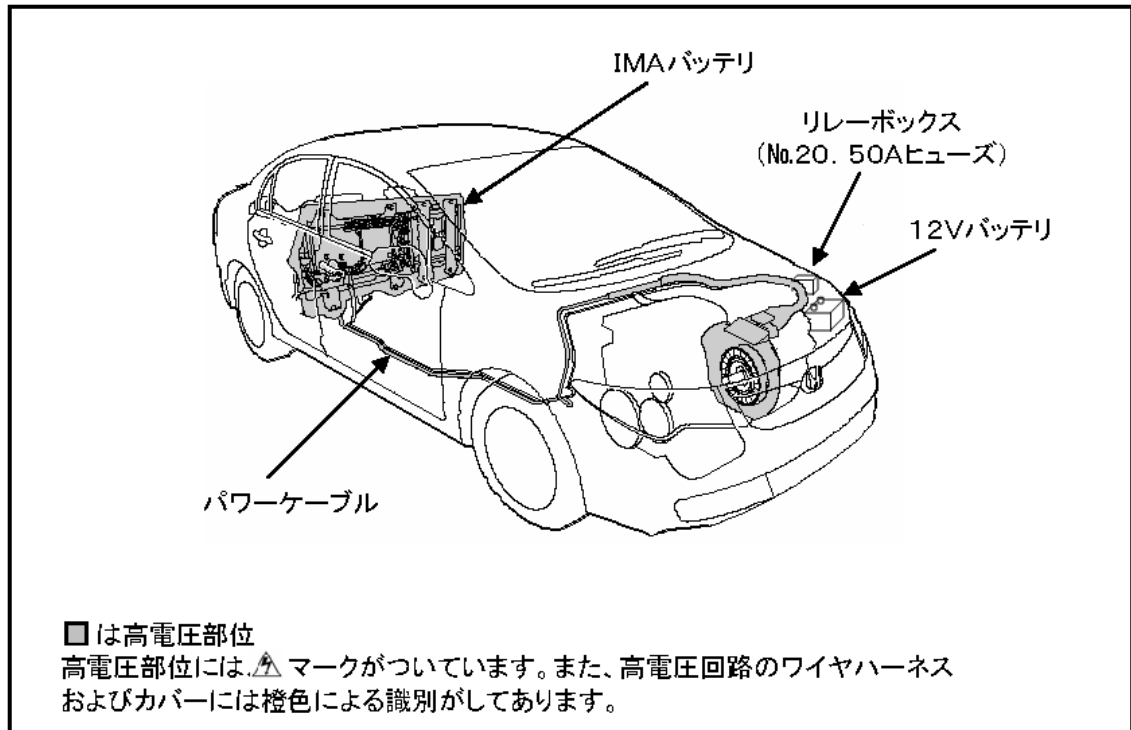


電解液が目に入ったり皮膚に付着すると、失明や障害を受ける危険があるので充分注意すること。
万一、目に入ったり皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で洗浄した後、専門医の診断を受けること。

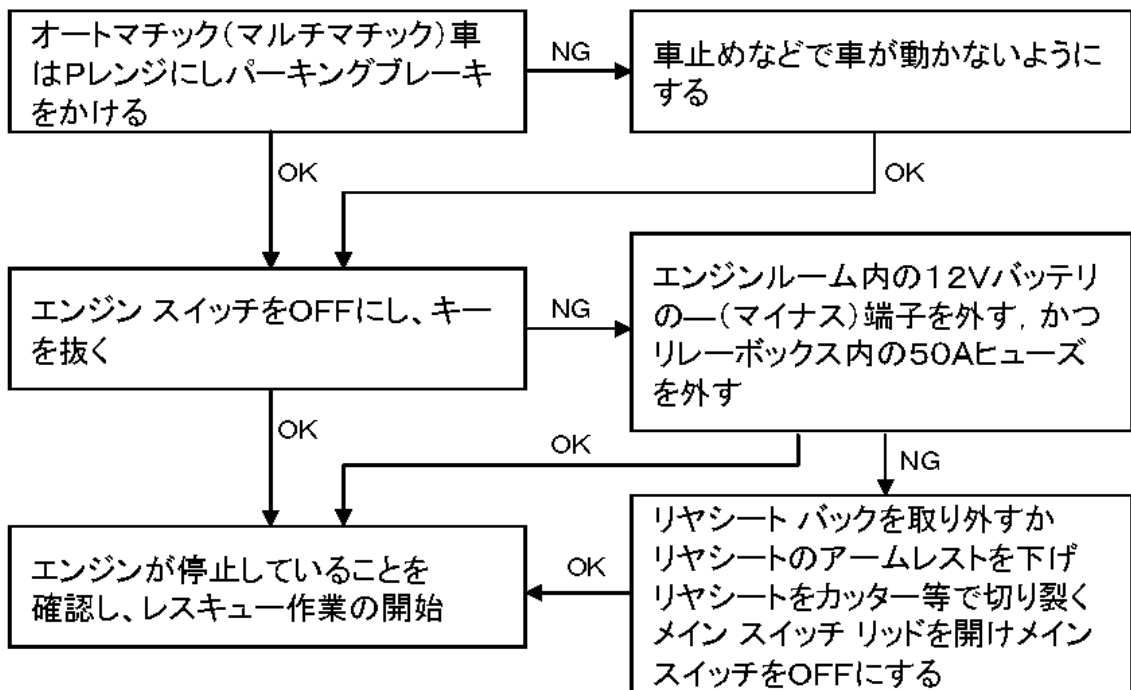
※「IMAバッテリー」のリサイクル

「IMAバッテリー」はリサイクルするために回収するので、廃棄しないこと。必ず「IMAバッテリー回収マニュアル」の指示に従って回収業者に渡すこと。

高電圧部位



衝突などで損傷を受けた車両の処置概要



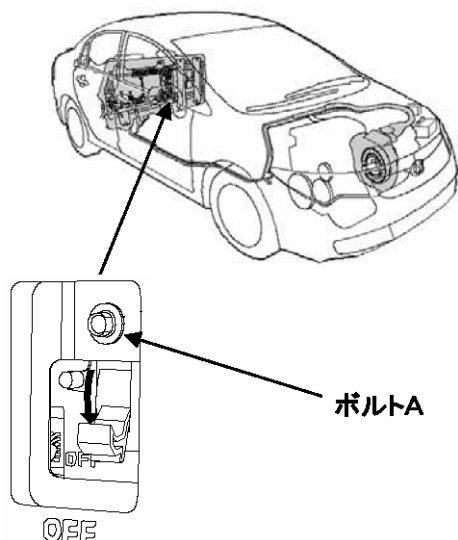
この機種特有の注意(IMAシステム)

高電圧回路の点検・整備上の注意

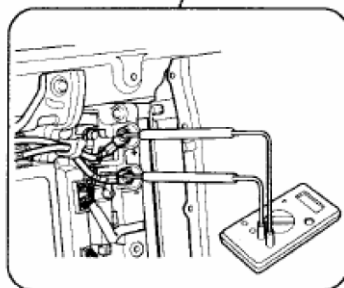
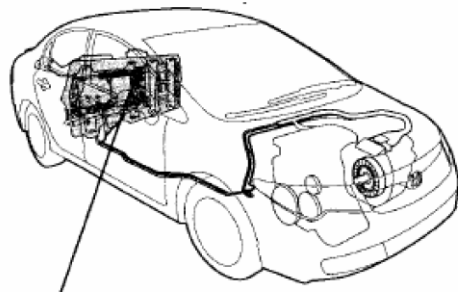
高電圧回路に関わる点検・整備を行うエンジニアには労働安全衛生法第59条ならびに労働安全衛生規則第36条により特別教育の受講が義務付けられている。

全般的な注意事項

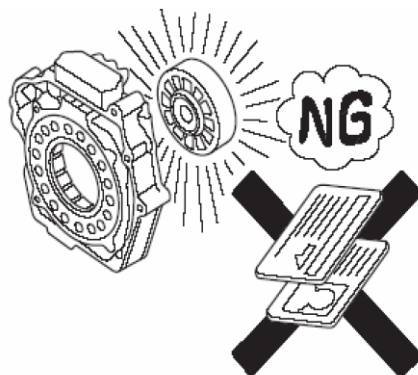
- IMA(インテグレートド モーター アシスト)システムは高電圧(158V)回路が使用されているので点検・整備作業を行う場合は、電気回路遮断と絶縁措置を確実に実施すること。
 - 高電圧回路のワイヤ ハーネスおよびカバーは橙色で識別されている。また、高電圧関連部品には、コーション ラベルが貼付けされている。これらの配線や部品には不用意に手を触れないこと。
 - IMAシステムの点検・整備を行う場合は下記の指示に従うこと。
 - ・必要のある場合を除いて、イグニッション キーは必ず抜いておくこと。
 - ・IMAシステムの警告灯が点灯している場合は、IMAシステムの故障診断を先に行うこと。
 - ・作業を行う場合は、絶縁手袋を必ず着用し、絶縁工具類を使用すること。
また、絶縁手袋は使用前にピンホール、裂き傷などの損傷がないか確認すること。
 - ・作業を行う前にメイン スイッチをOFFにする、固定カバーでOFF側に固定にし、ボルトAが見えていることを確認する。(6頁参照)
 - ・イグニッションスイッチをOFFにし、誤作動を防止するためイグニッションキーを抜く。
- ※メイン スイッチにロック解除ボタン(OFF状態からONへの誤作動防止)が装着されています。



- ・メインスイッチをOFFにして5分以上経過してから作業を開始すること。(コンデンサの放電に5分間要す)
- ・高電圧端子の接続を外す前に、テスタで端子間電圧(A)が30V以下になっているか確認すること。



- ・高電圧端子、バスバーなどを外した場合は、絶縁テープで絶縁処理を行うこと。
- ・作業中の車両には「高電圧作業中、触るな」をステアリング及び作業場所に掲示し、安全を確保する(10頁にこの表示を掲載してあるので必要なときはコピーを取って使用のこと)
- ・絶縁被覆のない部分を作業する場合は、絶縁工具を使用し、短絡を防止すること。
- ・高電圧と強力な磁力のある部品が使用されているので、短絡の恐れのある金属製品や、磁気記録破壊の恐れのある磁気記録媒体(プリペイドカード・キャッシュカード等)を身につけて作業をしないこと。また、ペースメーカー等の電子医療機器装着者は磁力の影響を受けて大変危険なのでこのシステムの作業は絶対に行わないこと。



この機種特有の注意(IMAシステム)

メインスイッチの切り方



危険 IMAシステムの作業を行う前にメインスイッチをOFFにし、固定カバーでOFF側に固定して電気回路を遮断すること。

①イグニッションスイッチをOFFにし、誤作動を防ぐ為にイグニッションキーを抜く。

②リヤシートバックを外す。

③ボルト2本を外し、メインスイッチリッドを取り外す。

④メインスイッチをOFFにし、ボルトAが見えていることを確認する。

※メインスイッチにロック解除ボタン(OFF状態からONへの誤作動防止)が装着されています。

12Vバッテリー交換時

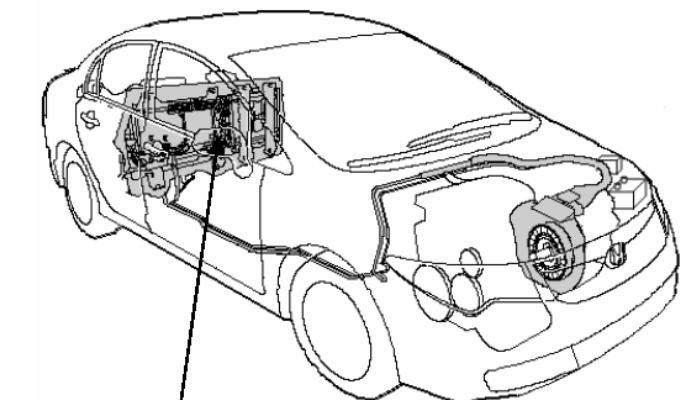
12Vバッテリーがあがったり、バッテリーケーブル端子を外した場合、IMAバッテリー残量表示(BAT)がエンジンを始動しても正確に表示されない。この場合30分程度走行すると正確な表示に戻る。

オートアイドルストップシステムについて

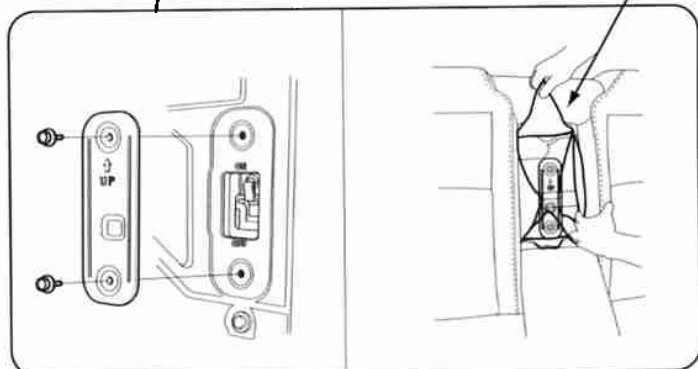
停止した際にエンジンを自動的に停止させるオートアイドルストップシステムを採用している。

・Dポジションで15km/h以上の車速からブレーキペダルを踏んだまま停車したときにシステムが作動し、エンジンは停止する。

・システムが作動した場合、ブレーキペダルを離すと再始動する。ブレーキを踏んだままでも、セレクターレバーをL、RまたはPポジションにするか、Nポジションでアクセルを踏めば再始動する。

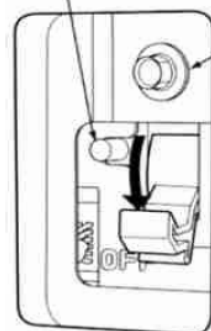


リヤシート



ロック解除ボタン

ボルトA



OFF

12Vバッテリーあがりのとき

●処理のしかた

路上で停止した場合は、速やかに交通の妨げにならない場所へ移動し、救援車の12Vバッテリーを利用してエンジンを始動させます。

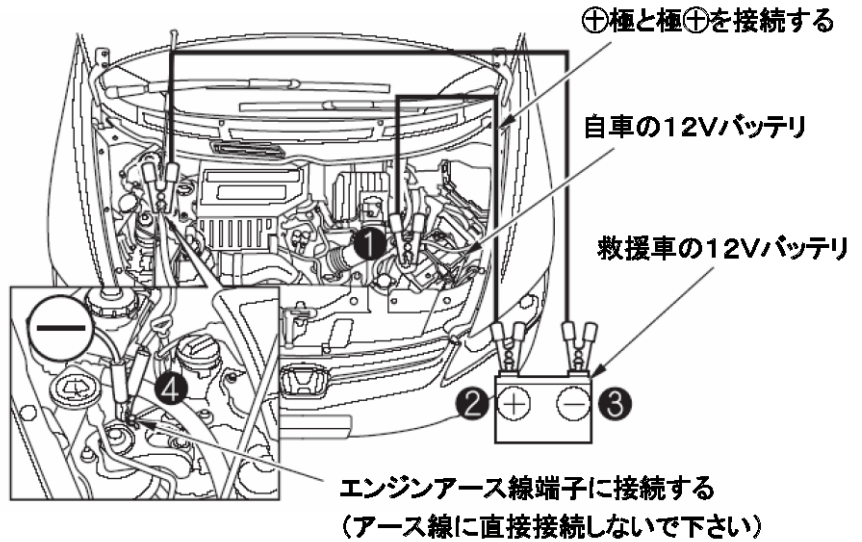
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目

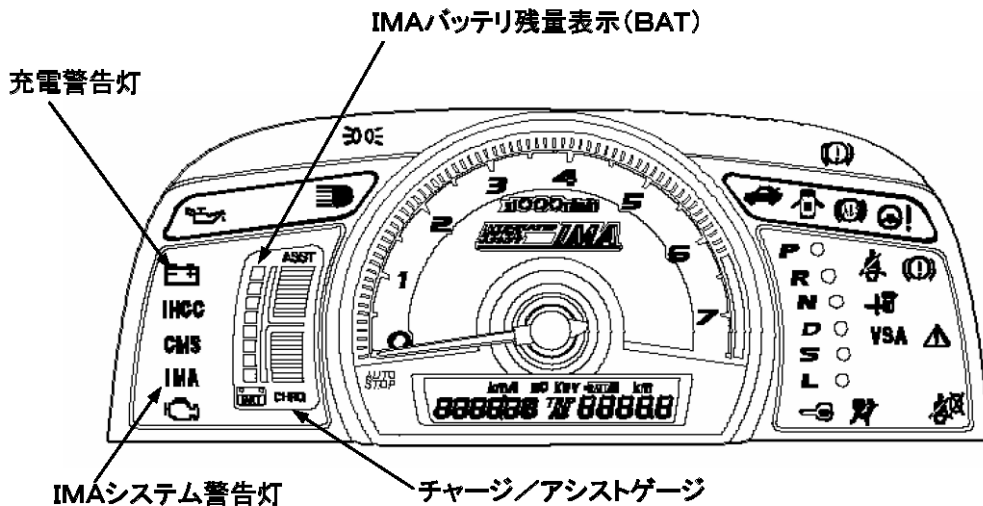
- ①自車の12Vバッテリーの⊕端子
- ②救援車の12Vバッテリー⊕端子

2本目

- ③救援車の12Vバッテリーの⊖端子
- ④自車のエンジンのアース端子



- ②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
- ③自車のエンジンをかけます。
- ④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。



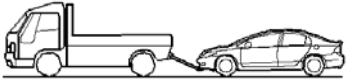


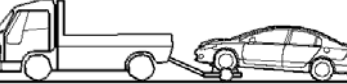
12Vバッテリーが上がった場合、エンジンを始動してもIMAバッテリー残量表示 (BAT) が正確に表示されない。この場合30分ほど走行すると正常な表示に戻る。

◇けん引について

けん引は次のことを守って行うこと。

- ・けん引ロープなどは、けん引フック以外に掛けないこと(けん引フックは緊急時のみ使用)
- ・車両に損傷を与えるけん引は行わないこと。
- ・速度は30km/h以下で、走行距離80km以内のけん引とすること(4輪を持ち上げてのけん引を除く)。
- ・車両を持ち上げるためにバンパを使用しないこと。
- ・前後の車輪が動かないときは、4輪を持ち上げてけん引すること。
- ・ニュートラルの状態にならない場合は、4輪を持ち上げてけん引すること。
- ・道交法に従ってけん引すること。

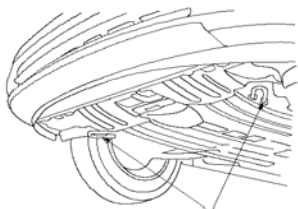
けん引は下記の表に従って行う

けん引方法	シフト位置	条件または注意事項
・ロープによるけん引 	Nポジション	①イグニッションスイッチをACC(Ⅰ)またはON(Ⅱ)にする ②パーキングブレーキを解除する。 HMMFフルードの量がレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認する。(下限より下がっている時は、前輪を持ち上げてけん引する) HMMF: Honda マルチ マチックトランスミッションフルード
・前輪を持ち上げてのけん引 	Nポジション	・パーキングブレーキを解除する。
・4輪を持ち上げてのけん引 	Pポジション	①車両が飛び出さないように必ず車両を固定する。 ②パーキングの状態にする。
・トレッカーによるけん引 	Nポジション	・パーキングブレーキを解除する。

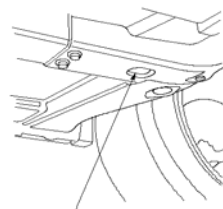
タイダウンフックおよびけん引フックの位置

緊急時

- ・脱輪等で動けなくなった場合は、リアのけん引フックにロープを掛けて引き出す。
- ・けん引フック使用時はロープがバンパおよびリップスポイラに干渉するので、ウエス等を当て保護すること。



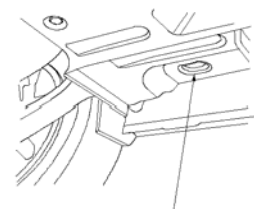
フロントけん引フック



フロントタイダウンフック



リアけん引フック



リアタイダウンフック

◇06M シビック ハイブリッド外観の特徴



担当

！ 触るな

中 高電圧作業中 

 高電圧作業中
触るな！ 担当

